

おひるよりの町史②

新十津川で生まれ、新十津川で活躍し、そして新十津川の歴史を良く知る人物へのインタビュー。
第2弾の今月号では、新十津川村の第10代村長で名譽町民第1号の後木喜三郎氏を祖父にもつ、後木元一さんの昔話をお届けします。

移住当時の様子は？

トツク原野に入植する前の滝川屯田兵屋に入居しているときから、兵屋2戸を教室として児童への教育が行われていたようだ。

明治23年6月15日、初めてトツク原野に入植したとき、祖父・喜三郎は12歳になっていたが、当時流行ったインフルエンザの病み上りの状態で、荷物運びの手伝いをしたようだ。

翌24年1月には村内2つの校舎で開校式があり、祖父も生徒として入校した。

喜三郎さんはどんな人でしたか？

祖父は、とてもしつけが厳しかった。おやじよりも…。

41歳までは農業を一生懸命やったそうだが、その後は、地区の強い推薦もあり、村の

ために恩返しをしようとして村議になった。だけど、決して自ら求めてするということはしなかった。すべて周りから頼まれたときだけすると決めていたようだ。村長や農協組合長になったときも、すべて周りから請われてなっていた。

昔、欧州戦争（第1次世界大戦）の特需で豆成金といわれるものが現れ、大正5年にはその影響で畑作農家の全盛期であったが、なぜかその年に17年間続けた畑作をやめて、水田農家になった。周りの人は「なぜ今、畑作をやめるのか」と不思議がったり笑ったりしたそうだ。おそらく祖父はこの時代から、今でいうバブルに踊らされてはいけないうると思っていたんだろう。

ところで、うちの家系は複雑でね。祖父は、最初から後

木喜三郎ではなかったんだよ。

大畠佐吉の家に生まれたが、森本家に預けられ、森本喜三郎として育った。しかし、北海道に移住して来るにあたって、実兄・中亀太郎の養弟になり、姓が中になった。入植後しばらくして後木家のお嬢さんと縁談がまとまると、婿入りして姓が後木になったんだ。生涯で何度も姓が変わっているんだ。

元一さんの若いときについて教えてください

昭和20年2月に北部第2部隊旭川師団に19歳で入隊した。このころは、みかん箱ほどの木箱に爆薬を詰めたものを背負って、敵の戦車に体当たりする肉弾方式の戦車破り訓練ばかりしていた。

5月からは千葉で沿岸警備の任務に就いたが、九十九里

浜の海岸ではいつもB29爆撃機が東京へ向かって頭の上を飛んで行くのが見られた。

その後、間もなく終戦となつて新十津川に戻つたが、戻つてからはずっと米作りばかりしていた。

農業をされているの思い出を聞かせてください

青色申告の会を作つた。個人個人で所得の申告を税務署にするより、団体で税に対する理解を深めて申告するよう働きかけた。

それから、平成16年10月に普及事業貢献賞を受賞したところかな。父と息子の親子3代で60年以上にわたつて、水稻品種決定の試験栽培や調査をうちの試験圃でやつてきた。

祖父はいつも「私たちが移住できたのはいろんな人たちのおかげ。その気持ちを引き

継いでもらいたい。そして、自分の力を困っている人たちや、周りの人に役立ててもらいたい」と話していたのを覚えている。だから、父から私そして息子へと試験栽培のお手伝いをしてこられたんだろうね。

普及事業貢献賞：

故・河野淳氏（元農業改良普及員）の意志を引き継ぐ河野基金記念事業の1つ。農業改良普及事業を側面から支援、協力し、地域農業と農村の発展に貢献した農業者を顕彰している。



受賞時の写真（平成16年）



故 後木 喜三郎 (うしろぎ きさぶろう)

明治11年4月15日、奈良県吉野郡十津川村大字那智合なちあいに生まれる。明治22年8月、十津川郷の大水害に遭遇し、当時11歳にして両親とともに北海道へ移住。大正8年から村議会議員として3期14年間、村政に参画。昭和9年に村長に就任し、常に公平な立場で村勢発展に尽くした。戦後、経済の混乱期に新十津川農協が破綻した際に請われて組合長となり、農民意識の高揚、団結を強調して組合再建案を樹立。昭和41年に新十津川町名誉町民第1号に推挙。昭和43年に勲五等瑞宝章を受章。昭和47年8月2日他界。享年95歳。



後木 元一 (うしろぎ もとかず)

大正14年2月23日、新十津川村字下徳富に生まれる。十津川移住団の直系子孫3代目。郷土史研究会の発展に寄与し、機関誌「トック」や町の歴史にとって貴重な写真集の発刊に尽力するなど、史実研究に情熱を注ぎ、大きな評価を得ている。新十津川農業協同組合専務理事、文化協会会長、郷土史研究会会長、文化財保護審議会委員、保護司、民生委員など、多数の公職を歴任。昭和61年度新十津川町表彰(功労表彰)、平成20年度新十津川町文化協会表彰を受賞。現在は、弥生区で4世代家族で生活をしている。

郷土史研究会の会長もして
いましたね？

最初は、家内が入っていた
んだけど、当時はほかに女性
会員がいなくて、一人ぼっち
が嫌でやめてしまった。その
代わりに自分が入ったような
感じだわ。

もう会長の職は後輩に譲っ
たけど、どこの町にも同じよ
うな会があつて、同じような
問題を抱えていると思う。そ
れは、新たな会員が入ってこ
ないことと、会員の高齢化が
目立って存続の危機にあると
いうこと。でも、無くすのは

寂しいし、一度無くしてしま
うと、もう一度立ち上げるの
はとても大変だから、ぜひ残
してほしいな。

これからの新十津川に期待
することは？

この間、奈良県の十津川村
に行ってきたけど、同じこと
で悩んでいるな。全国共通な
悩みだと思うが、少子化問題
や郷土に定着する若者が減っ
てきている。子どもが減って
きたら、次の代にこれやって
ほしいとかあれやってほしい
とか思ってもどうもならんし

よやね。ここ10年も経てば農
地の地図が変わると思つよ。
今でさえ、来々百姓をやめる
とか再来年やめるとか言つ人
が目に見える。今からでも
長期計画を立てて、少子化対
策に取り組んでほしい。
年金もそつだけど、これか
らの人は少ない人でたくさん
の老人を養わないとならない
から大変だと思うよ。

月ブチ情報
開拓記念館内に、当時の
学校の様子を再現したコー
ナーがあります。そのコー
ナーに置いてある子ども
人形の衣装。実は、後木元
一さんが幼少期に実際に着
ていた着物なのです。



小学生の後木さん？



開拓記念館の学校のコーナー